

同時記者発表
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

令和 8 年 6 月 5 日
港湾局 海洋・環境課

藻場などのブルーカーボン生態系を手軽に地図で視える化！
～Blue carbon Data Archive Systemの利用を開始します～

国土交通省港湾局及び港湾空港技術研究所^{※1}は、グリーンレーザー搭載ドローン^{※2}などのリモートセンシング技術による計測データや、環境データ（水深、底質、水温、透明度等）による数値モデルから藻場の分布や面積を算定し、地図（WebGIS）で可視化できるシステムBlue carbon Data Archive System（通称BDAS（ビーダス））を開発しました。このたび、数値モデルを用いて算定した藻場の分布及び面積について、WebGIS上での一般公開を開始します。

※1 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

※2 水中透過性の高い緑色のレーザー光（波長532nm）を利用し、上空（航空機やドローン）から陸地と水中の地形を同時に3次元計測できる測量技術

藻場・干潟等のブルーカーボン生態系は、CO₂吸収源としての役割に加え、海洋環境の改善、水産振興、環境教育を通じた地域活性化など、多面的な効果を有しており、新たな地球温暖化対策としてその活用の促進が期待されています。

国土交通省港湾局では、ブルーカーボン生態系を活用したブルーインフラ（藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物）の整備を、全国各地で推進しています。

BDAS は、ブルーインフラの整備効果確認等を目的として開発したシステムです。本システムでは、グリーンレーザー搭載ドローン等のリモートセンシング技術による計測データや、環境データ（水深、底質、水温、透明度等）による数値モデルを BDAS 内で解析・処理することで、藻場の分布や面積を算定し、その結果を地図（WebGIS）上で確認することができます。

このたび、数値モデルを用いて算定した藻場の分布や面積について、WebGIS上での一般公開を開始します。なお、グリーンレーザー搭載ドローン等による計測データのアップロード及びその結果の確認機能については現在整備を進めており、8月上旬に利用可能となる予定です。

今後は、人工衛星画像データや音響測深機器等、他の計測手法により取得されたデータにも対応できるよう、システムの改良を実施する予定です。

○BDAS及びその操作マニュアルについては以下のリンクからアクセス、ご覧いただけます。

・ <https://bluecarbon-data-archive-system.jp/>

○グリーンレーザーによる計測データをBDASに取込むため、誤差やアノテーション処理等を自動で実施するソフトSubmerged Aquatic Vegetation Analysis System（通称：SAVANS（サヴァンス））の開発を進めております。利用開始日については、現在整備中のBDASの機能と同じく8月上旬を予定しています。なお、誤差やアノテーション処理等のソフトに規定はなく、SAVANS以外で処理を実施した計測データでもBDASに取込む事は可能です。

○グリーンレーザーによる藻場計測のマニュアルを公開しており、以下からご覧いただけます。

・ <https://www.mlit.go.jp/report/press/content/002016572.pdf>

【問い合わせ先】

港湾局海洋・環境課 山田、小松崎

TEL:03-5253-8111（内線 46654、46682）、03-5253-8685（直通）

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 茂木

TEL:046-844-5046